

在外被爆者を含んだ 被爆体験とその継承

とよ なが けい さぶ ろう

豊永 恵三郎さんの運動



広島の被爆者であり、修学旅行生へ被爆体験を語る会の立ち上げや、

韓国をはじめとする在外被爆者援護運動に関わってこられた

豊永恵三郎先生(1936年生まれ)に、

その運動と思想を存分に語っていただき、
被爆体験の広島における継承の問題について認識を深めたいと思います。

2022

第1回 1/30 (日)

15:00~17:30

(お話し約1時間半 コメントや解説、質疑応答約1時間)

豊永さんの被爆体験と「ヒロシマを語る会」、
被爆体験の継承

■ 豊永 恵三郎さんのお話

聞き手(司会): 中村 平 広島大学大学院 人間社会科学研究所 人文学プロ
グラム・比較日本文化学プロジェクト研究センター

対談: ファンデルドゥース ルリ

広島大学平和センター・大学院人間社会科学研究所 平和共生プログラム
(兼任)准教授

2022

第2回

2/19 (土)

15:00~17:30

在外被爆者問題・韓国人原爆犠牲者慰霊碑
の経緯・ヒロシマの課題

■ 豊永 恵三郎さんのお話

聞き手(司会): 中村 平 広島大学大学院 人間社会科学研究所 人文学プロ
グラム・比較日本文化学プロジェクト研究センター

対談: 許光茂(ホ・グアンム)

一橋大学博士、
「日帝強制動員&平和研究会」研究委員

お申し込み

<https://forms.gle/vzQXbkscKxzXFedP9>

[締切: 1月23日(日)まで]

豊永さん収集作成の資料集を

参加者に事前に配付します。

お申し込みは
こちらから

お問い合わせ ● 比較日本文化学プロジェクト研究センター(担当: 奥村) d216783@hiroshima-u.ac.jp

● 主催 / 広島大学比較日本文化学プロジェクト研究センター

● 共催 / 広島大学平和センター、ダイバーシティ研究センター、教育ビジョン研究センター(EVRI)

受講料
無料

オンライン
開催



とよ なが けい さぶ ろう

豊永 恵三郎さん

被爆体験と在外被爆者裁判、そして被爆体験の継承について、じっくりとお話を伺えるまたとない機会です。



「坂駅で列車からおりてきた被爆者の姿を見た光景」豊永さんの被爆体験を聞いて、広島市立基町高校・普通科創造表現コースの生徒によって描かれた作品

【プロフィール】

1936年横浜市生まれ。3歳の時、両親と広島市に移り、9歳で入市被爆。母と3歳の弟は爆心地から約1.6kmで被爆。母は息子をかばって火傷を負って被爆。広島大卒業後、私立高の国語教員となる。71年に初訪韓した際に、韓国にも原爆被害者の団体があることを知り、在韓被爆者への支援活動を始める。72年に「韓国の原爆被害者を支援する市民の会」広島支部を作り、2016年5月広島支部長を退任するまで実に44年もの間続けられる。「生きている限り、被爆体験や平和を創り上げていくことの大切さを多くの人に語っていきいたいと思う。」その他に俳人としての活動もある。

【略歴】

- 1936年 横浜市生まれ。
- 1939年 (3歳) 両親の出身地の広島に転居(広島市尾長町)。
- 1942年 (6歳) 父、病死。
- 1945年 (9歳) 8月6日、坂町に行っていたため難を逃れる。7から9日、母と弟を探して入市被爆。その後、船越町で生活。海田高等学校、広島大学に進学。
- 1961年 (25歳) 32年間、国語教員として広島電機大学附属高等学校(現広島国際学院高校)に勤務。
- 1971年 (35歳) 初訪韓。72年「韓国の原爆被害者を支援する市民の会」入会、広島支部設立(初代支部長)。
- 1984年 (48歳) 修学旅行生などに被爆体験を語る会「ヒロシマを語る会」を結成。
- 1987年 (51歳) 「ヒロシマへ 韓国の被爆者の手記集」刊行。
- 1990年 (54歳) 広島市による韓国・朝鮮人原爆犠牲者慰霊碑(仮称)建設準備委員会に参加、辞任。
- 2011年 (75歳) 台湾の被爆者を支援。

「広島で学んだことを自分なりに解釈してほしい。そういうものを持って【バトン】として多くの人へ渡してほしい。」

豊永恵三郎【広島平和記念資料館 被爆者証言ビデオ_VS00896】(c)(公財)広島平和文化センターより

2022
第1回 1/30 (日)

豊永さんの被爆体験のお話を伺い、その後どのように感じ、活動が続けられてきたかなど、平和活動の研究家、ファンデルドゥース ルリ先生を交えて「被爆体験の継承」等について語っていただきます。

●対談

ファンデルドゥース ルリ

広島大学平和センター・大学院人間社会学研究科平和共生プログラム(併任)准教授

専門は、実証記憶学(社会科学)。「記録・記憶の更迭と継承」をテーマに、原爆被爆体験の実相と記憶の証言・展示・教育・広報活動がもたらした「平和」に関する意識変革と国際社会への影響を考察し、持続可能な継承のありかたを探究している。

2022
第2回 2/19 (土)

豊永さんの在外被爆者問題の活動の推移等のお話を伺い、「日帝強制動員&平和研究会」研究委員の許光茂(ホ・グアナム)先生を交えて、「韓国人原爆犠牲者慰霊碑の経緯」、「これからのヒロシマの課題」について語り合ってください。

●対談

許光茂(ホ・グアナム)

一橋大学博士、「日帝強制動員&平和研究会」研究委員

「対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会」調査課長・審査課長として、証言集「わが身に刻まれた8月」の調査執筆や聞き取りに当る。



●司会

中村 平

広島大学大学院 人間社会科学部研究科 人文学プログラム・比較日本文化学プロジェクト研究センター

日本学や人類学を学びながら、植民主義に関わる人びとの歴史経緯を聞き、書くことを、その意味を考えながら研究中。特に、日本植民主義と台湾先住民の関係についてフィールドワークをしながら研究。

豊永さん収集作成の資料集を参加者に事前に配信します。

※双方の回とも、関連資料を事前にお配りしますので、よろしければお読みになってご参加ください。